

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 13 日現在

機関番号：33606

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2008～2011

課題番号：20390547

研究課題名（和文） 看護倫理教育モデルの構築と検証：実践場面の倫理的判断・対応の検討と国際比較から

研究課題名（英文） Proposing and evaluating a teaching nursing ethics model from dialogues with nursing students and practice nurses

研究代表者

小西 恵美子 (KONISHI EMIKO)

佐久大学・看護学部・看護学科・教授

研究者番号：70011054

研究成果の概要（和文）：看護倫理教育のモデルの提示・評価を目的に、3つの研究を行った。第1部「よい仕事ツールキットによる学生の追跡調査と国際比較」では、同キットを題材に、信念、価値、目標、責任、卓越性、役割モデル等の「よい仕事」のテーマについて看護学生たちと対話し、国際比較した。第2部「看護師との継続的ワークショップ」では、主要倫理概念の講義と事例検討を行った。焦点を事例検討におき、問題解決枠組みに頼るよりも、状況を注意深く吟味することの重要性を強調した。看護師のフィードバックをこの教育モデルの主要な質的評価とし、量的評価は、第3部「看護師への質問紙調査」において、道徳的感受性尺度に着目し、その日本版を開発、看護師へのサーベイにより、日本における使用可能性を検証した。

研究成果の概要（英文）：This study, aiming at proposing a teaching and learning nursing ethics model, comprised three parts. In part I, nursing students participated in focus group sessions that used stories in The GoodWork® Toolkit. In part II, practice nurses participated in work-shop programs that 1) taught ethics concepts and then 2) studied and discussed cases. In the case study, rather than relying on problem-solving frameworks, nurses were encouraged to examine the case carefully by asking questions such as: why the patient/family says so?, is patient/family verbalized wish genuine?, why the situation so happened?, Together with the nurses' qualitative feedbacks of this program, quantitative evaluation tool of our teaching ethics model was explored in part III. As the first step, Japanese version of the Moral Sensitivity Questionnaire (JMSQ) was developed and a survey was given to nurses to confirm its usability for Japanese nurses.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
20年度	2,900,000	870,000	3,770,000
21年度	2,800,000	840,000	3,640,000
22年度	2,300,000	690,000	2,990,000
23年度	2,200,000	660,000	2,860,000
年度			
総計	10,200,000	3,060,000	13,260,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護倫理学

1. 研究開始当初の背景

本研究は、我々の先行研究、患者2あるいは看護師3が認識する「よい看護師の研究」から着想した。その重要な意義は、これまで西洋の影響から自律・善行などの倫理原則の言葉でしか語られていなかった日本の看護には、実は徳の倫理が脈々と流れていることを気づかせたことである。看護基礎教育では倫理原則を教え、実践現場では臨床で起る倫理問題をそれらの原則で分類し、西洋からもたらされた枠組を用いてなすべき行動を導こうとしていたが、倫理はなかなか看護師たちに近づいては来なかった。難しくて遠い抽象的な存在になっていた看護倫理に、今こそ徳の倫理の出番だと思った。本研究で我々は、看護学生や看護師が持っているありのままの心に語りかけ、共に考えようと、彼らとの対話を重ねることとした。

2. 研究の目的

倫理的能力の促進を目標として看護倫理教育のひとつのモデルを提示することを目的とした、

3. 研究の方法

3つのプロジェクトを組んだ。第1部「よい仕事ツールキットによる学生の追跡調査と国際比較」では、「よい職業人」「よい仕事(実践)」について看護学生たちと対話した。題材は、ハーバード大学の研究者らによるGood Work Toolkitの中の物語である。国際比較を視野に、米国の研究者らと連絡をとりつつ研究した。第2部「看護師との継続的ワークショップによる倫理教育」では、①臨床で起る状況を事例を用いて吟味した。②その過程で、看護師の熟考を促すいくつかのアプローチを試みた。③この方法による倫理教育の効果を質的に評価した。④評価を量的に評価するツールの検討のため、第3部「看護師への質問紙調査」では、倫理教育の効果を検証する量的ツールとして看護師の道徳的感受性に着目し、日本版道徳性感受性質問紙(JMSQ)と看護師の職場環境質問紙(WEQ)を作成し、その妥当性も検討した。

4. 研究成果

本研究をガイドしたのは、「Davis Anne et al. 2006/小西監訳 2008:看護倫理を教える・学ぶ。倫理教育の視点と方法,東京,日本看護協会出版会」である。そこで述べられていることは、単に「学生」に対してだけでなく、看護師への倫理教育にもあてはまると考え

る。たとえば、

・「倫理の教育とは、倫理的問題に対する色々な考え方を学生に示し、学生はそれらの考え方を個々の事例(Case)に用いて論理的に考える、そういう学習を助けることである」(p.7)。

また、

・「教育と教化(indoctrination)には重要な相違がある---。学生にとって、教化が倫理的によいと言えるとしたらそれはどのような場合なのだろうか? 看護学生は教化されるべきなのか?」(p.6)。

本研究の教育モデルでは、事例や物語を中心に据えた。学生や看護師は、その事例について先ず自分と対話し、次いで、仲間と対話する。このモデルの意義を次に記す。

①学生は、物語をとおし、次のような命題を自身に問う。・私はどんな職業人になりたいか?・私が思い描く最善の仕事を妨げる要因にはどんなものがあるか?・そういう妨害要因に備えるには私は何ができるか?・よい仕事って何だろう?・仕事の楽しみとは?・私の仕事のよしあしを判断する基準とは何だろう?・誰の基準が最も重要か?

②学生にとっては、上記の問いは重過ぎるかもしれない。価値とか責任について考えたこともない子もいるだろう。だから、事例が描くのは、他者の経験だ。他者の人生の中でそれらの価値等がどう関係しているかを考えられるように。そのあとで、学生は自分に引きよせて考える。こうして事例は仲間との対話へと参加者を誘っていく。事例に描かれた他者の苦悩や成功を読むことから、学生はその人物から学び、その人の経験を出発点に、自分自身の価値を考え、これからの仕事について考える。

③学生とのセッションで、物語を行きつ戻りつ、学生同士で対話するうちに、自分にもあるかもしれないと主人公に近づいていき、ついには主人公の考えを共有する、という例を幾度もみた。はじめは物語の主人公を自分たちとは無関係な人として利害関係も責任もなく、色んなことを言い、建前で話していたにも関わらず、対話していくうちに、学生たちの語りが本音に近づいていくという変化である。私たちはそこに、物語を使う意味があると考えている。

④事例や物語は、看護師にとっても、個人的なことをいわずに、他者の経験から自由に考え、仲間と自由に対話をするきっかけとなる。すなわち、他者の経験を通して自分を考えることができる。

⑤物語を用いて学生・看護師間の対話を促す

手法は、普段無意識であったことを意識化する、自分の思いを言葉で表現する、他者に傾聴する、他者の多様な考え方を知る、などの点で有用である。

⑥学生は倫理原則を学んだばかりであり、また看護師は、倫理原則は知識としては持っていた。しかし、彼らが語る内容は、原則をもとにした内容ではなかった。このように、学生は自分の生育環境のなかで形成されてきた内的基準で、また看護師はそれに臨床経験が加わった内的基準で、よし悪しを判断していた。この研究は、適切に準備された物語を読み、対話をして、その人が持っている内なる基準を研ぎ澄まし、それを大事にしたり表現する助けとなったと私たちは考えている。

⑦前項の「適切に準備された物語」とは、臨床をまだよく知らない学生には、学生になじみやすく明白で具体的な内容の記述や物語である。同じことは看護師にも言える。「適切に準備された物語」は、一見ささやかな日々の看護を描く。だが、掘り下げるとそこに倫理があり、人間の力関係、職場環境、また文化や法の関わりがある。自分と仲間との対話によって、それらが現れてくる。

⑧日本の倫理教育では、自律・無害等の倫理原則が非常に重視されている。たしかに、倫理原則は世界の医療の共通語として重要であるが、もし、倫理原則を単に知識として教え込み(教化)、学生や看護師がそれを表面的に知る、ということであれば、かえってそれは弊害になることを心すべきである。

本研究を行った4年間に、日本看護倫理学会が設立され、我々はそこで本研究の成果を沢山発表した。そのことと相まって、それまではほぼ、自律、善行といった倫理原則の言葉でしか倫理は語られず、原則の倫理一色だった看護倫理が、「よいとは」「よくないとは」という倫理の根源的な問いの探求や、徳の倫理やケアの倫理など、他のアプローチにも着目する時への移行を示しつつある。また、かつては、看護師が遭遇するジレンマを列挙し分類することに関心が向いていた。しかし現在の流れは、それら問題の克服・解決に向かっている。そのためのツールとして、事例検討の役割が大きくなってきた。私たちの研究が、このような変化の要因のひとつになったとすれば、望外の喜びである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 19 件)

① 小西恵美子(2012). 日本の看護倫理のあした(巻頭言). 日本看護倫理学会

誌,4(1),1-2.

② 前田樹海、小西恵美子 (2012). 改訂道徳的感受性質問紙日本版 (J-MSQ) の開発と検証:第 1 報. 日本看護倫理学会誌,4(1),32-37.

③ 中嶋尚子、鈴木真理子、吉岡恵、田中高政、宮崎紀枝、宮原香里、雨宮多喜子、小西恵美子(2012). 看護学生の職業倫理の涵養にロールモデルは有効か: 学生の捉えるロールモデルから. 日本看護倫理学会誌,4(1),3-8.

④ 田中高政(2012). よりよい論文を生み出すための著者・査読者・編集者の協働. 日本看護倫理学会誌,4(1),49-51.

⑤ 小西恵美子、小野美喜(2011). 喜び・苦悩・学び: 若手看護師のよい・よくない看護師体験から. 日本看護倫理学会誌, 3(1),11-18.

⑥ Anne J Davis, 八尋道子・小西恵美子訳 (2011). 看護倫理の基本を考える: 看護における倫理、意思決定の枠組み、看護師の倫理的能力. 日本看護倫理学会誌,3(1),3-10.

⑦ 小西恵美子 (2011). 特集序文: Good Nurse 研究にみる東アジア国際共同研究の意義・方法論・成果. 看護研究, 44(7).

⑧ 小西恵美子 (2011). 東アジア Good Nurse 研究の船出と推進、成果. 看護研究, 44(7), 636-642.

⑨ 八尋道子・サマンサ・パン (2011). Van Kaam の現象学的手法と Good Nurse 研究: 徳の倫理における異文化比較研究方法論. 看護研究, 44(7), 643-653.

⑩ Olsen, D. P., 八尋道子・和泉成子訳 (2011). 看護倫理のための価値—西洋からみた Good Nurse 研究. Values for Ethical Nursing: Some Comments on the Good Nurse Study. 看護研究, 44(7), 678-683.

⑪ 小西恵美子(2010). 看護の心としての倫理: 実践・教育・研究の協働(日本看護倫理学会第 2 回年次大会会長講演). 日本看護倫理学会誌, 2(1), 46-49.

⑫ Anne J Davis, 八尋道子・尾崎フサ子・小西恵美子訳(2010). 実践・教育・研究の協働における倫理: 学問の発展とよりよい看護ケアのために(日本看護倫理学会第 2 回年次大会基調講演). 日本看護倫理学会誌, 2(1), 50-62.

⑬ 小野美貴, 小西恵美子, 八尋道子(2010). 明治から現代までの教科書に記述された「よい看護師」の変遷. 日本看護倫理学会誌, 2(1), 15-22.

⑭ Emiko Konishi (2010). Case history and reply to comments. In: Edwards E, MaCarthy J, Konishi E. Case study,

- Nursing Ethics 17(4), 523-526.
- ⑮ 小西恵美子(2010).「医の倫理と法」書評. がん看護, 15(6), 621.
- ⑯ Emiko Konishi, Michiko Yahiro, Naoko Nakajima, Miki Ono(2009). Harmony: The Japanese traditional value and its implications for nursing ethics. Nursing Ethics, 16(5), 625-636.
- ⑰ 小野美喜, 小西恵美子(2009). 臨床看護師が認識する「よい看護師」の記述:若手看護師の視点. 日本看護学教育学会誌,18(3), 25-34.
- ⑱ 小西恵美子(2008). 日本の看護倫理: 研究の視点から. 日本看護倫理学会誌 1(1), 20-23.
- ⑲ 小西恵美子, 八尋道子, 小野美喜, 田中真木(2008). 論壇: 看護における徳の倫理の意義. 日本看護科学学会誌 28(4), 3-7.
- [学会発表] (計 31 件)
- ① 小西恵美子, 前田樹海(2012). 職場環境は看護師の道徳的感受性を高めるか. 日本看護倫理学会第 5 回年次大会, 5 月 26-27 日, 東京.
- ② 鈴木真理子, 小西恵美子 (2012). 事例検討方法に関する一考察: 枠組みを使わない事例検討を試みて. 日本看護倫理学会第 5 回年次大会, 5 月 26-27 日, 東京.
- ③ 中嶋尚子, 鈴木真理子, 吉岡恵, 宮崎紀枝, 八尋道子, 小西恵美子(2012). チームと「私」の両立: 「よい仕事」への看護学生の模索. 日本看護倫理学会第 5 回年次大会, 5 月 26-27 日, 東京.
- ④ 小西恵美子, 太田勝正(2012). 看護倫理の視点で原発災害時下の現状を考える. 日本看護倫理学会第 5 回年次大会, 5 月 26-27 日, 東京.
- ⑤ 勝原祐美子, 小西恵美子, 前田樹海, 星和美, ウイリアムソン彰子(2012). 本物の共著者は誰だ?: オーサーシップの倫理. 日本看護倫理学会第 5 回年次大会, 5 月 26-27 日, 東京.
- ⑥ 田中高政, 中嶋尚子, 鈴木真理子, 吉岡恵, 小西恵美子(2012). 不確実な世界における自己満足: 看護学生の「よい仕事」の基準. 日本看護倫理学会第 5 回年次大会, 5 月 26-27 日, 東京.
- ⑦ Emiko Konishi, Jukai Maeda(2011). Perceptions of work environment and moral sensitivity among Japanese nurses: a preliminary study. The International Center for Nursing Ethics 12th International Conference, 7-8 September, Surrey, UK.
- ⑧ Jukai Maeda, Emiko Konishi(2011). Validation of a Japanese version of the revised Moral Sensitivity Questionnaire. The International Center for Nursing Ethics 12th International Conference, 7-8 September, Surrey, UK.
- ⑨ 小西恵美子, 小野美喜(2011). 看護師がとらえる「よい看護実践」の枠組み. 日本看護倫理学会第 4 回年次大会予稿集. 60. 8 月 28 日. 岩手県滝沢村.
- ⑩ 中嶋尚子, 鈴木真理子, 吉岡恵, 田中高政, 宮崎紀枝, 雨宮多喜子, 小西恵美子(2011). 学生にとってのロールモデルの意味. 日本看護倫理学会第 4 回年次大会予稿集. 38. 8 月 28 日. 岩手県滝沢村.
- ⑪ 鈴木真理子, 吉岡恵, 中嶋尚子, 田中高政, 宮崎紀枝, 雨宮多喜子, 小西恵美子(2011). 学生にとっての仕事の目的と意味について. 日本看護倫理学会第 4 回年次大会予稿集. 39. 8 月 28 日. 岩手県滝沢村.
- ⑫ 田中高政, 前田樹海, 大森純子, 大久保功子, 田村恵子, 濱口恵子, 中嶋尚子, 小西恵美子(2011). よりよい論文を生み出すための著者・査読者・編集者間の協働. 日本看護倫理学会第 4 回年次大会予稿集. 85. 8 月 28 日. 岩手県滝沢村.
- ⑬ 小西恵美子(2011). 倫理的なよい看護とは: 心で見るとよく生きる. 第 2 回かごしま国際フォーラム基調講演, 10 月 22 日, 鹿児島市.
- ⑭ Anne J Davis, 八尋道子, 小西恵美子 訳 (2011). 看護における倫理的感受性について. 第 2 回かごしま国際フォーラム基調講演, 10 月 22 日, 鹿児島市.
- ⑮ 小西恵美子, 小野美喜(2010). 喜びと学び: 若手看護師が体験する「よい看護師」「よくない看護師」. 日本看護倫理学会第 3 回年次大会, 予稿集 p.40, 6 月 12 日, 札幌.
- ⑯ 吉岡恵, 鈴木真理子, 宮原香里, 田中高政, 宮崎紀枝, 中嶋尚子, 雨宮多喜子, 小西恵美子(2010). 自分の長期目標と短期目標の葛藤: 物語を用いた看護学生への教育的アプローチから. 日本看護倫理学会第 3 回年次大会口演, 6 月 12 日, 札幌, 予稿集 p.52.
- ⑰ Emiko Konishi, Miki Ono(2010). Happiness, distress, and learning: Japanese junior nurses' experiences of being a good or bad nurse. The International Center for Nursing Ethics 11th International Conference, 13-14 September, Turku, Finland.
- ⑱ Emiko Konishi(2010). East Asian Traditional Values and Nursing Ethics Education (Keynote Address). International Conference of Nursing

- Ethics and Nursing Research, Nov 6, Taichung, Taiwan.
- ①⑨ 鈴木真理子、柿川房子 (2010). 緩和ケアにおける看護師の多職種との協働：チームカンファレンスに着目した記述的研究. 第 36 回日本看護研究学会、8 月 22 日、岡山市.
- ②⑩ 小西恵美子 (2010). 高齢患者の治療拒否：学生・海外倫理学者との対話から. 日本生命倫理学会第 22 回年次大会、11 月 20・21 日、愛知県豊明市.
- 21 Michiko Yahiro, Samantha Meiche-Pang, Emiko Konishi (2009). Cancer patients' perceptions of bad nurse practice in Japan. The 12th EAFONS (East Asian Forum of Nursing Scholars), Mar 13-14, Tokyo, p.64.
- 22 Emiko Konishi, Samantha Mei-che Pang, Michiko Yahiro, Young Rhan Um, Hseuh-Chin Chou, Helen Yue-lai Chan, Shigeko Izumi, Maki Tanaka, Hsiao-Ying Tsai, Shu-Yueh Chen (2009). How Do Taiwanese, Chinese, Japanese, and Korean Patients Portray the Bad Nurse? ICN 24th Quadrennial Congress, June 27-July 4, Durban, p.3.
- 23 Emiko Konishi, Miki Ono (2009). Japanese nurses' perceptions of the Good Nurse Work. The 1st International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science. Sept 18-19, Kobe.
- 24 Emiko Konishi (2009). Japanese nursing students' perceptions of the Good work: a Pilot Study. ICNE (International Center for Nursing Ethics) 10th Anniversary Conference, 10-11 Sept, Surrey, UK.
- 25 小西恵美子 (2009). 国際比較をとおして日本を見る：東アジア「よい看護師」研究を中心に. 第 29 回日本看護科学学会学術集会シンポジウム「文化的境界を越えて発展する看護学」講演、11 月 27 日、予稿集 p.128.
- 26 小西恵美子 (2009). 看護の心としての倫理：実践・研究・教育の協働. 日本看護倫理学会第 2 回年次大会会長講演、6 月 6 日、佐久市、予稿集 p.19.
- 27 小野美喜、小西恵美子 (2009). よい看護師を育むものと阻むもの：臨床看護師の視点、同上、p.38.
- 28 吉岡恵、鈴木真理子、田中高政、宮崎紀枝、宮原香里、中嶋尚子、雨宮多喜子、小西恵美子 (2009). 仕事からの求めと自分がもつ価値観：物語を用いた看護学生への教育的アプローチから. 日本看護倫理学会第 2 年次大会示説、6 月 6 日、佐久市、予稿集 p.74.
- 29 Emiko Konishi, Shigeko (Seiko) Izumi, Michiko Yahiro, Maki Tanaka (2008). Politeness and harmony: Values in Japanese nursing practice, Nursing Ethics and Health Care Policy: Bridging Local, National and International Perspectives, The international center for Nursing Ethics, New Heaven, Connecticut, USA. 17-19 July.
- 30 小西恵美子 (2008). 看護倫理のタペストリー：研究の視点から. 日本看護倫理学会第一回年次大会シンポジウム講演、6 月 15 日. 神戸.
- 31 小野美喜、小西恵美子 (2008). 臨床看護師が認識する「よい看護師」. 第 28 回日本看護科学学会学術集会、12 月 13 日.

〔図書〕 (計 2 件)

- ① 小西恵美子 編 (2011). 看護倫理：よい看護・よい看護師への道しるべ. 東京：南江堂 (一部改定第 6 刷).
- ② 小西恵美子 監訳 (2008). 看護倫理を教える・学ぶ：倫理教育の視点と方法. 東京：日本看護協会出版会.

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況 (計◇件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織
(1) 研究代表者

小西恵美子 (KONISHI EMIKO)

佐久大学・看護学部看護学科・教授
研究者番号：70011054

(2) 研究分担者

竹尾 恵子(TAKEO KEIKO)
佐久大学・看護学部看護学科・教授
研究者番号：00114538
雨宮多喜子(AMEMIYA TAKIKO)
佐久大学・看護学部看護学科・教授
研究者番号：10382392
前田樹海(MAEDA JUKAI)
東京有明医療大学看護学部看護学科・教授
研究者番号：80291574
宮崎紀枝(MIYAZAKI TOSHIE)
研究者番号：50349172
田中 高政(TANAKA TAKAMASA)
佐久大学・看護学部看護学科・助教
研究者番号：80398354
鈴木真理子(SUZUKI MARIKO)
佐久大学・看護学部看護学科・助教
研究者番号：10281255
中嶋 尚子(NAKAJIMA NAOKO)
佐久大学・看護学部看護学科・助教
研究者番号：40347373
八尋 道子(YAHIRO MICHIKO)
佐久大学・看護学部看護学科・助教
研究者番号：10326100
吉岡 恵 (YOSHIOKA MEGUMI)
佐久大学・看護学部看護学科・助手
研究者番号：20520836
宮原 香里(MIYAHARA KAORI)
佐久大学・看護学部看護学科・助手
研究者番号：30520837

(3) 連携研究者

()

研究者番号：